

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

2003
秋

9月1日発行(季刊)



茶の湯の文化講座第二回 茶席の中の道具の見方
讃岐の古陶磁展
好評連載 美藻庵点描／Oh!茶Gai!
九月から十一月までの茶華道・イベント情報を掲載

和うるしに魅せられて

木によって、採る時期によって、また掻き方によっても漆の樹液の性質は変わる。
原料の九割以上を中国産にたよる漆器の製作現場に於いて、無添加の生うるしに
こだわり、格闘する。作品を創っては世に問うという作業の繰り返しだ。
さらに次は五名の山にうるしの木を植えるそうだ。

(和うるし工房あい：宮崎佐和子さん／松本和明さん)

39

発行・財団法人中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL.(087) 826-3355 FAX.(087) 826-2212

茶の湯の文化講座

第2回

茶席の中の道具の見方

講師 小田 榮一 先生

7月27日、去年に引き続き同会主催の講演会が晴松亭に於いて実施されました。小田先生は日本陶磁協会理事、香雪美術館等の理事として幅広く活躍され、茶の湯の道具に関する著作も多数あります。今回も先生の道具をお持ち出し頂き、ご出席の皆様には名品を手にとって楽しんで頂きました。

◆茶室に於ける主客の対応

最近、茶席でのお話がどうも硬すぎて、なかなか盛り上がりがないことが多いようですが、やはり茶会というのは正客と亭主が和やかに周りを盛りたてて、雰囲気を作ってもらわんと困ります。一般の大寄せですと点前役、半東役もおりますし、ことに薄の場合は初めから質問してもいいということになっております。ところがこの頃は雇われ亭主が多くて、うっかり「掛け物は」と聞いても「さあ、なんでしたっけ……」。

これでは話にならないので、いつも学生に言うのですが、たとえ自分に関係無うても亭主としてそこへ座った以上は「今日の道具はわしのものや」と思えど。少々間違っても心配ないのやからと前の晩から特訓して、これだけは覚えておきなさいよというてやらせるんですが、中々うまいこといきません。うっかり「お茶碗は何ですか」と聞きましても「会記にありますー」。反対に怒られたりします。(笑)

例えば正客に道具があまり得意でない方が座られた時には、亭主は「今日のお正客は何でもございですが、代わりに私の方からちよつとご説明させて頂きます。」と言うと割合に角が立たずにいけます。で、あんまり知り過ぎた正客も困る。例えば沢庵和尚の一行が掛かっていてもそれまで、皆が聞きたがっていても質問が無いわけです。正客を通さずにものを聞いてはいかんとい

う風に普段から仕込まれて居るから尚更です。亭主は、正客がこれでは続かんという場合には「お正客！きょうの沢庵の一行はどうでしょうか？」とか「言葉は普段どのように読んでるのですが、それでよろしいでしょうか」と亭主の側から誘いだしていくと、皆も喜ぶというように持っていくます。

また、物によつてはどんなあんまり聞いてはいかんのもあります。茶碗なんかでも、自分の手元に回つてきて、飲んで次に廻してる間に「この茶碗なんやろ、どこの窯の物やろ、誰が持ってたというもので、さあ？」と興味を持ちながら頂いてるもので、いきなり、まだ点前をしてる最中から「お茶碗は？」と聞くひとが居りますが、あれは本当に困つたもんです。やっぱり物には段階があつて順序があつて、まあそういうことの要領を皆さん心得て頂くと大変ありがたいなと思います。

さて、茶約というのは中々鑑定のしにくいもので、皆どうかすると敬遠します。拝見に出るか出ないかという時に、「お茶約は？」ともう尋ねてしまふ。昔は、茶約の当て合ひをするのが最後のお茶の醍醐味であつて、順番にいろんな道具が回つて参りまして最後に茶約がお詰めまで回つて、その間正客は亭主に絶対に尋ねてはいけません。

茶約が亭主の処へ戻つて挨拶があつて「ところで、お茶入れはどういうもんです

か？」と言いながら、茶約の場合は「どなたですか？」と一応聞くわけです。亭主は今すぐここで「だれ」と答えてはならない。そこに妙味があるわけだとして「今日は皆さんお目利きの方ばかりで、この茶約をどのように見て頂きましたでしょうか？どうぞ一つご判定の方を」と言いますと、客の方では、あれやこれやとほそぼそやるわけです。「ところで、ご亭主。これは利休さんですか？」「いやあ、さすがに」とうまく合えばよろしいですが。(笑) まあそういう時は、間違ふにしても少し上を言うのがよろしいかもしれません。(笑)

中にはずいぶん正客がおりまして、ちょっと自分で答えられん時は「お詰め、あんなこれどない思う？」「私は庸軒と思います」「ああ、わしもそう思う」と(笑) だいたい和やかにそういうやり取りがあつて、ほんとお茶なんですけれども、最近はいきなり会記を片手に握りしめてチェックして帰られるのが、まあ今の茶会の現状です。

この会記というのは罪作りなもので、あれを渡すとね、皆覚えないうんです。うちに帰つてみたらええわてなことでしょうが、まあ絶対見ません。(笑) 家に帰つて見られる方は相当優秀な方だと思ひます。それよりもその日印象に残つたもの、茶碗とか茶入れとか、あるいは掛け物でもいいですが、一、二点手帳に記録しておきますと、その一つの茶碗からその日のお茶会の様子が頭の中で再現されていきます。会記の一

◆茶席の「掛け物」

「掛け物」の場合には、書画とひと口に言いますが、書といえは墨跡、それに古筆、後は懐紙とか一行とか、それに付随したものが出て参ります。絵画は絵画で水墨画とか彩色画とかいろいろありますね。それを全部マスターするのは大変ですから、やはりまあ、自分の趣味のあるものをこさえて、少なくとも桃山時代の日本の絵画なら一通り知つてゐるわよと。一つのことを研究しようとする時、自然と周りのことも知らないで探究はできないもんですから、結構勉強になります。

墨跡の場合ですけれども、まず第一に定義がありまして、前提となる条件としては、臨済宗の坊さんの書いたものでないと、我々の世界の墨跡には入らない。特に大徳寺派は茶の湯と非常に縁が深いんですけども、それ以前では、中国は臨済宗の五山、日本では鎌倉五山、京五山の寺の坊さん達が書かれたものが、墨跡といわれるものです。時代でいいますと中国は宋、元時代。日本の場合は鎌倉中期から室町まで。これが墨跡の限界なんです。ところが今日では言葉の解釈が広がつて参りまして、臨済宗の書かれたものは全て墨跡だといつてゐるうちに、桃山時代の和尚も江戸時代の沢庵和尚も一応墨跡ということで箱書きするようになっております。デパートの墨跡展などではさらに拡大解釈をする場合もありますが、茶の湯の世界ではせいぜい一休さんくらいまでが墨跡といえるのではないかと思います。墨跡という名前は結構重みがあります。

で、言葉に関しましては、もう書いてある内容を知り尽くすというのは大変です。ですから我々が墨跡を見る時には、とりあえず中の内容のありがたさは横に置いて置きなさい。それよりは字から受ける印象、

覧表を見るよりその方がずっと印象に残るように思ひます。

雰囲気。こういう字を書くのはどんなひとやろう？という気迫のどういう心の持ち主が書いたものだろうか、とにかく字の持っている雰囲気を感じること、墨跡により親しみを覚えるのではないかと思います。いよいよ解らない時は「一」の字を見ただけでも書き手の性格や個性が解ります。いずれにしてもその書から受ける雰囲気というのは尊いものであります。

さて、古筆ですが、もちろん墨跡の場合もそうですが、元来お茶のために書かれたものではないですね。古筆の場合は万葉集とか古今集等の古い和歌を筆写したものです。それを分割して、帳面の場合ならバラバラにした一頁とか、あるいは二頁ずつを、巻き物なら歌のところで切って、丁度いい具合に表装したものです。そういうものをお茶の世界では大変にありがたがる。その場合何を見るかという、やはり書から来る雰囲気、これが大事です。それと古筆の場合は、何集から写したのかをまず知る必要があります。また、例えば本願寺から出た石山切等の場合でしたら、料紙が非常に美しい。つまり書いてある紙ですが、きれいに紙を継ぎ合わせたり、破れ継ぎといまして何重にも継いだ紙とか、凝った地模様が美しい。こうした紙も古筆の見所となります。

◆茶入れについて

まず道具の中でも茶入れというものは、単なる取り合わせの道具というよりも、非常に権威のある象徴となったものです。利休さんはいくつも名物の茶入れの型を取った紙を二、三十枚懐に入れていた。その紙にはそれぞれの茶入れの景色も描いてあり、太閤さんに助言を求められた時の資料としたんです。戦功に対する恩賞としてどんな茶入れを下げ渡すといったことを差配していくうちに利休さんは太閤の政治的支配にも関わっていききました。

茶入れを太閤さんから頂くという場合に、一國一城に替わるとよくいわれますけど、これは下手に土地や城をもらうよりは茶入れ一個をもらう方がありがたかったんですね。なぜかといいますと、例えば周辺から攻められた場合などに、太閤さんの権威を振りかざして牽制することが出来ます。茶入れが同盟の証みたいなもので、これは並大抵の値打ちじゃないわけです。

香雪美術館に「利休丸壺」という茶入れがあります。それを見てびっくりするのは、まず挽家（ひきこ）に入って、それが革袋に入って皮の袋というのは非常に火に強いんです。それが桐の箱に入ってます。桐は水を止めまして、しかも箱の上下と前後左右に座布団が入ってます。その外側にはもう一遍座布団があつて、さらに桐箱があつて、今度は箱の外側に銅が張つてあります。それがしかも鉄になつて、ということは矢が当たっても大丈夫ということで、最後は枠があつて、それで担ぐようになっています。仮に追いつめられて天守閣の上から堀に投げ込んで中身は大丈夫。本当に大変な防御をしていたんですね。それ以前は茶壺がお宝だったので、壊れやすくて、持って逃げられないので茶入れに比べて人気が落ちてしましました。

ところで次第がすごいというのは周りだけがすごいわけではありません。中がすごいから周りがすごいんです。中がほんくらで外がすごいことは絶対ありません。茶入れの鑑定をする時はまず仕覆を見ます。絶対に名物裂のついている物は中身も名物ですよ。殊に江戸時代などは貿易が平戸だけになって、いい裂地が手に入りにくく、当時の茶人はもう、血眼になってさがしたんです。袋は非常に高価ですからよほどの物でない限りそうした名物裂地は使えないんですね。ですから裂地を見れば中身もいい物です。ただし、人間の場合はそうはいきません。（笑）

◆道具と箱

茶碗でもそうなんです。これも仕覆と同じでいい物でないとい箱には入りません。箱にお金を賭けるといのは、中身がいいからそうするのであつて、最近箱さえあつたらいいというような風潮があつて、箱に頼り過ぎるんではないかという、気もします。

我々の世界は古い物の世界ですから、時代の箱にまつさらの紐が掛かっていたら、もうゾーッとします。いっそ無い方がいい。そうかと言うて古い紐を探すのは大変なんですけれども、そうなるともう紐を抜いて古い風呂敷に包むと、それはそれでまた納まる。風呂敷もまた古いのを探すのは大変ですが、もし私が税務署の役人になったら、倉の中に入つてぐるっと一瞥すればそれで

終わります。どれぐらいの風呂敷でどれぐらいの箱でということを見れば、中身は殆ど想像がつかます。

箱という物のありがたさを知っているのは日本人だけです。いい物ならいい箱に入れて、箱も一緒に楽しんで来ました。ましてや箱書きなんて、中国でも問題にしません。誰が書いたとか、どういう伝来が書いてあるとか、箱の材質がどうかというのは、日本人だけの世界です。箱入り娘なんて言葉もご存じです。まあ、箱から出たらもう知りませんが、そういう風に日本人独特の、物を伝え、大事にし、しかも銘なんていうのは本当に特殊な世界で、銘を付けてさらに楽しむという。一つの物を倍にも三倍にも楽しんで来たというのが解ります。

次号に続く

美藻庵点描

十三、路地・露地



前回まで茶室の内部について触れてきたが、茶室（数寄屋）を茶の湯を行う部屋として成り立たせるには、それに至る外部空間が不可欠である。この茶室に通じる通路に設けられた庭を路地・露地という。

「路地」の文字は桃山時代に使われ、「露地」の文字は江戸時代になって使われるようになったようである。この露地に沿って、茶事・茶会に必要な寄付・中門・腰掛待合・雪隠・蹲踞などが配られ、その他適度な植栽を行うが、泉水は設けない。侘び寂びの趣を表すことに留意し、茶事茶会には必ず打水を行う。庭内を二分して、外露地と内露地とを設ける、二重露地型式も桃山時代にすでに造られていたようである。茶庭の入り口に設けられている門や、木戸を特に露地門及び露地戸と称する。

古陶磁展より

の 岐 讃

平成十四年秋に、五色台(高松市亀水町)の瀬戸内海民俗資料館で「讃岐の古陶磁展」が催されました。江戸時代から讃岐で焼かれてきた陶器約一〇〇点の展示内容は、香炉や茶碗、香合や水指、手あぶりなどの茶道具、また、茶懐石用の鉢や皿、文机や書院棚に飾られた硯屏、置物など、実に多彩なものでした。主催は瀬戸内海民俗資料館と南海美術工芸研究会。好評を博した展示のパンフレットの説明文と代表的な作品を、紹介します。

■理平焼(理兵衛焼)

元祖の森嶋半弥重芳は元和元年(一六一五)滋賀県信楽町で作陶を初めた。二代目の作兵衛重利は京都市東山区栗田口へ移って陶業を営んでいた。

高松藩初代藩主松平頼重侯は正保四年(二六四七)に作兵衛重利を召しかかえ、栗林公園の北端で作陶が初まり、姓名を紀太理兵衛重利と改名した。以降の代々が理兵衛を襲名したので理兵衛焼と呼ばれた。

十代目理兵衛惟道るとき明治維新の变革に会い、理兵衛を理平と改めたので、以降は理平焼となり、現在は十四代、紀太理平洋子氏に至っている。元祖の創窯から三百八十七年、理兵衛焼から三百五十五年を経ている。理平焼は色釉を用い、緑、赤、紫、金、銀などで文様を表す色絵陶が多い。



理平焼 大香爐

■源内焼

平賀源内が創始した交趾焼風な三彩の焼きものである。交趾焼は中国南部で明



源内焼 二連鉢

時代末から清時代に焼かれた緑、黄、紫色で型物、軟陶のやきものであるが、源内はこれにオランダ風の意匠も加味して、形、文様など源内独特のやきものを案出している。

平賀源内はさぬき市志度町に江戸中期の享保十三年(一七二八)に生まれ、エレクトル(摩擦起電気)の復原など、多くの発明、創案を行い、その奇才ぶりは広く知られている。

源内の指導を受けた陶工は赤松松山(五番屋・伊助)、堺屋源吾、脇田舜民(皁々斎)、貞松軒民山などがある。

源内焼はその後の富永庸八、岡田尚八などの陶工、また東讃地方や高松地方のやきものに大きな影響を与えている。

■屋島焼

三谷林叟により初められた。林叟は宝暦二年(一七五二)木田郡牟礼町に生まれ、明和三年(一七六六)十五歳から志度町の堺屋源吾に源内焼を習得した。安永五年(一七七六)三木町平木の三谷家

の養子となり、こゝで製陶していた。

享和三年(一八〇三)に高松藩主八代松平頼儀侯の命により高松市屋島西町の屋島の西山麓に移り屋島焼を創窯した。



屋島焼 手焙

作品は源内焼風の軟陶が主流であるが、塑像作品も多く、また京都の楽家の弟子、清兵衛が来て楽焼の技法が伝わり、源内焼と技術交換したともいわれる。赤楽の茶碗など茶器も多く、林叟独自の作風をもっている。

林叟の跡は次男大造が継ぎ、五代の昭和十八年頃まで続き、皆林叟を襲名している。長男の伴造は初代の生家を継いだ

が、景喬と称して屋島焼を焼いている。また高松で焼いた赤松陶浜の父子、久保祖舜父子も屋島焼として製陶した。

■讃窯

高松藩主九代松平頼恕侯は藩内の産業奨励の名目で白鳥町三本松の名家、十代堤治兵衛に京焼の名工、仁阿弥道八を招いてやきものを作ることを命じた。道八は前後二回来讃している。

第一回は天保三年四月(一八三二)にその子三代道八と弟子三人で来讃し、堤家の土地に築窯した。翌天保四年正月、作品を藩主に献上、その精巧優美真に目を驚かしたとあり、同年八月、治兵衛に「讃窯」



讃窯 香爐

治兵衛に「讃窯」

財団行事予定

(九月・十二月上旬)

九月

◆九月当財団月釜「さぬきもの茶会」

以前財団の茶の湯委員の方々に「讃岐の道具を使つて」というテーマで茶会を披露しました折「道具は身近にもあるのや」とか「茶会を大変身近に感じて楽しかった」等お話を伺い又機会があればぜひと思つていましたら昨秋「讃岐の古陶磁展」が野田さん達によって催され幾人かのお持寄と伺いましたので、それではぜひ茶会もそこ無理をお願いいたしました。讃岐で作られた道具達が、茶室でどのような顔を見せてくれるか又その道具や讃岐の文化を支えてきた方々のお話しが席中で伺えることを今から楽しみにいたしております。茶の湯を楽しむ方ばかりでなく経験のない方もお気軽にお出かけ下さりご参加お待ちしております。

記

とき 平成九月二十八日(日)

茶席 点心席・濃茶席・薄茶席

席主 茶道石州流 琴松会 野田宗弘

入席時間 案内

第一席 九時	第二席 九時五十分
第三席 十時四十分	第四席 十一時三十分
第五席 十二時二十分	第六席 十三時十分
第七席 十四時	第八席 十四時五十分
席料 五千元	各席十五名の予定

十月

◆財団設立十周年記念事業

鼎談「桃山の茶陶」

樂焼茶碗と和物茶碗

当財団が設立され十年を迎えました。

この記念の事業として今春武者小路千家家元後嗣となられた千宗屋氏、樂家十五代樂吉左衛門氏、桃山時代から続く道具

Oh! 茶Gai!

その⑬



今回は商社にお勤めの宇野由貴子さん。お茶を習い始めたのは9年前、近所で教室の看板を見て飛び込んだとか。その頃は他にもテニスやフィットネスなど色々通っていたそうですが、今でも続いているのはお茶だけだそうです。仕事が忙しくなってきた時間に通うのが難しくなっても今の先生は宇野さんの時間に合わせてくれたから続いたそうです。

今夢中なのは青年部の活動。会社と違って幅広い方々と出会い刺激を受けているとか。青年部で企画しているまちかど茶会・チャリティー茶会では教室のお茶会とは違って、色々な方に出会えるのが楽しいそうです。また独自に開催している勉強会として和菓子作り・彫漆・銀粘土細工などに挑戦してとても楽しかったそうです。

「国内旅行も最近では温泉めぐりがほとんど。海外も年に一度は行ってるかな?」というほど旅行が大好きな由貴子さん。時間に追われる仕事からの気分転換という意味でお茶も旅行も楽しんでいるみたいです。

喫茶居(十七)

「デパートのお茶」

旅行中に訪れた初めてのデパートで、お買物の品定めに疲れて、ロイヤルコペンハーゲンのティーラウンジで一休みしました。

デンマーク王室御用達の食器は、日本の染付け磁器を思わせる色や図柄で愛好者も多いのですが、壁には幾とおりもの絵替りの花を咲かせたプレートが飾られ、まるで、お花畑でのティータイム。

カレーを注文した子供連れの若いお母さんに對抗して、酪農国・デンマークらしいオープンサンドを追加して、ティーカップの縁に「ゴールデンリング」を描き出すというウエ

ア茶を注文しました。

ウエイトレスの人からタンニンの含有量が多いと聞かされましたが、渋みよりコクを感じさせて、おやつ感覚に添えた濃厚な味は、旅の歩き疲れをすっかりいやしてくれました。

ポットにお湯をさしてもらって、琥珀色した香りの紅茶を、もう一味、ゆつくりと楽しみました。



を賜わり銘印として陶器に押している。

第二回は十九年後の嘉永四年(一八五二)に十代藩主松平頼胤侯は十一代堤治兵衛に道八を再び招くよう命じた。この時十一代治兵衛は大病につき、代って庄屋高畑作兵衛が世話をし、第一回と同じ人物が来讀した。藩主松平頼胤侯は高畑家で親しく作陶状況をみたことから「御庭焼」と呼ぶようになった。道八はすぐれた技法と感覚により各地に招聘され手腕を発揮している。仁清、乾山以降衰微した京焼の復興にめざましい活躍をした。讃窯道八もそのなかで重視されている。

■陶浜焼

志度町には源内焼より以前に志度焼があり、赤松弥右衛門が元文三年(一七三三)に創窯した。この子孫はつぎのように七代にわたり陶業に従事している。

赤松弥右衛門―清兵衛―松山(源内焼、富田焼、松山焼)―魯仙―赤松陶浜(初代、猪太郎)―陶浜(二代、喜平)―陶浜(三代、清一)

赤松陶浜は屋号を房崎屋。虞、讀画堂、農夫、石水と号し高松で作陶した。軟陶で源内焼風や交趾釉のもの、また画を中川馬嶺に学び、器面に白釉を施して梅、菊、蘭、竹の四君子などを画いている。のちに屋島の土を用いて赤楽などの茶器をつくり八島焼の銘

を入れた。明治元年

(一八六八)五十九歳で歿した。子孫が二代、三代陶浜として明治、大正期に作陶した。



陶浜焼 火鉢

商谷松屋戸田商店社長 戸田博氏の鼎談を企画し、開催致します。(八頁参照)

各界を代表する方々の美の感性や見識を伺い、今後の参考になれば幸いです。

また、当財団茶室で記念茶会の釜をかけたいただきます。お道具は桃山時代を中心に、点心は利休時代の献立を参考に再現いたしますので併せてご案内申し上げます。

講演記念茶会

とき 十月六日(月)

処 当財団茶室 美藻庵・晴松亭

席主 濃茶席

薄茶席 戸田一玄庵

点心席

入席時間ご案内

第一席 九時 第二席 十時

第三席 十一時 第四席 十二時

第五席 十三時 第六席 十四時

席人数 一席十五名

参加費 一萬五千元

十一月

◆十一月月釜「行く秋をおしむ」

炉開の月に裏千家淡交会の先生方が当財団月釜に釜をかけて下さることにになりました。詳細につきましては後日ご案内させていただきますが楽しみにお待ちくださいませ。

記

とき 十一月二日(日)

席主 濃茶席

薄茶席 裏千家淡交会

点心席

土居宗房

武田宗卓

すべての行事は予約制(時間指定)となります。お申し込み、お問合わせは、

当財団事務局まで(水曜日休館)

高松市番町二丁目一十二

☎(087)8266・03355

茶 華 道 ガ イ ド

一茶流一茶庵 久松会 ☎(087)885-2322

11/16 一茶庵茶と花会
席主：一茶流久松会中村一鐘
玉藻公園披雲閣 1200円 9:00～15:00

池坊高松支部 ☎(087)889-1169

9/26～28 第20回池坊香川県連合花展
席主：香川県連合支部
高松天満屋7階催会場 無料
10:00～19:00

表千家同門会香川県支部 ☎(087)874-0458

11/9 表千家流四季茶会 席主：香西宗志
本覚寺別院 500円 9:00～15:00

財団法人小原流高松支部 ☎(087)833-9274

10/19 小原流野外いけばなパフォーマンス
「五色台は秋いっぱいpart V」
五色台瀬戸内海歴史民族資料館
無料 10:00～16:00

10/24～26 香川芸術フェスティバル2003参加
小原流いけばな展
「交流と創造—さぬき新名所—」
丸亀町レッツ 無料 10:00～18:00

三笑亭賣茶流高松仙友会 ☎(087)831-6253

10/19 東讃茶道懇話会月釜三笑亭賣茶流
席主：石原恵泉
池戸西徳寺 400円 9:00～16:00

琴平月釜茶道会 ☎(0877)75-4420

9/14 松尾寺月釜(裏千家)席主：上松宗邦
松尾寺 500円 9:00～16:00

10/10 金刀比羅宮例大祭奉賛茶会
静風流(煎茶) 席主：金丸鳳洋
町文化会館 200円 9:00～16:00

11/9 松尾寺月釜(官休庵)
席主：山科タミ子 松尾寺
500円 9:00～16:00

11/23 町文化祭琴平裏千家教授者一同
代表 田中宗武 アクトことひら
200円 9:00～15:00

12/6,7 歳末助け合いチャリティー茶会
琴平官休庵 教授者一同
代表 竹井清子 町総合センター
200円 9:00～16:00

10/9,10 金刀比羅宮例大祭奉賛花展
(池坊、嵯峨、華月、鳳月流)
町文化会館 無料 10:00～16:00

茶道裏千家淡交会香川支部 ☎(0877)46-1899

9/11 多度津町観月会呈茶
席主：多度津分会一同
多度津町民会館 300円 18:00～20:00

9/7 乃木、円珍まつり 席主：稲毛宗敏
金蔵寺 500円 10:00～15:00

9/14 月釜 席主：上杉宗邦 琴平松尾寺
500円 9:30～15:00

9/14 月釜 席主：成行宗正
観音寺働く婦人の家 500円 12:00～15:30

9/28 月釜 席主：多田羅宗光
坂出勤労福祉センター
500円 9:30～14:00

10/12 朝日山献茶 席主：加藤宗和
善通寺市朝日山 500円 10:00～15:00

10/19 月釜 席主：多田羅宗紀社中
坂出勤労福祉センター
500円 9:30～14:00

10/19 善通寺茶筌供養 席主：善通寺分会
善通寺 500円 10:00～15:00

11/3 文化の釜 席主：片山宗穂、矢野宗葉
坂出グランドホテル
500円 10:00～15:00

11/3 芸術祭茶会 席主：田中宗菊
丸亀生涯学習センター
500円 10:00～15:00

11/3 芸術展協賛茶会 席主：多度津分会一同
多度津町福祉センター
500円 10:00～15:00

11/9 月釜 席主：荒木宗広
観音寺働く婦人の家
500円 12:00～15:30

11/23 琴平文化祭 席主：琴平分会
アクト琴平 500円 10:00～15:00

12/7 月釜 席主：田中宗清
坂出勤労福祉センター
500円 10:00～14:30

茶道裏千家淡交会高松支部 ☎(087)865-7150

9/7 月釜 席主：香西宗清
天神会館 600円 9:00～16:00

9/14 栗林公園月釜 席主：平野宗芳
前売 800円(掬月亭と公園入場料)
当日 710円(掬月亭のみ)
1080円(掬月亭と公園入場料)
9:00～15:00

10/5 月釜 席主：東讃
天神会館 600円 9:00～16:00

石州流讃岐清水派石州会 ☎(087)898-6569

9/13 第7回八兵衛茶会 席主：土居宗美
塩江町立塩江美術館
500円 15:00～20:00

9/21 高松市市民文化祭アーツフェスタ
たかまつ2003 第30回秋趣茶会
席主：筒井宗梅 玉藻公園披雲閣
500円 9:00～15:30

10/5 流祖宗関公331年祭記念茶会
席主：野口宗真 和敬会有志
玉藻公園披雲閣 1100円 9:00～15:00

10/12 栗林公園月釜
席主：石州流讃岐清水派石州会
掬月亭 800円 9:00～16:00

11/16 塩江町紅葉まつり茶会
席主：土居宗美
塩江町自然休養村センター2階
300円 10:00～15:00

草月流香川支部 ☎(087)861-3284

10/22～11/3 商業空間における草月中田グループ展
高松天満屋 無料 10:00～19:00

玉藻公園管理事務所 ☎(087)851-1521

9/20,21 高松市市民文化祭
秋趣茶会といけばな展 披雲閣

10/5 石州流祖宗関公331年祭記念茶会
披雲閣

10/26 高松屋島ライオンズクラブ秋の茶会
披雲閣 1000円

11/16 一茶庵久松会「流展」(茶会と華展)
披雲閣

11/30 香川大学表千家流茶会 披雲閣

武者小路千家香川官休会 ☎(087)851-2258

9/7 月釜 席主：頭松会
本覚寺 500円 9:00～15:00

10/5 月釜 席主：原美恵子
本覚寺 500円 9:00～15:00

10/26 高松屋島ライオンズクラブ秋の茶会
席主：屋島ライオンズクラブ、三好綾子 披雲閣

11/2 月釜 席主：井上令子
本覚寺 500円 9:00～15:00

武者小路千家官休庵 佐々木博子社中 ☎(087)821-8777

10/12 名残り茶会
席主：官休庵佐々木博子社中
中條文化振興財団 700円 9:00～16:00

次の期間(12月1日から3月上旬)の情報を11月10日までにお知らせ下さい。

上記予定は変更する場合があります。

イ ベ ン ト ガ イ ド

丸亀市民会館 ☎(0877)23-4141

9/7 丸亀少年少女合唱団
～定期コンサート～ 14:00～●
9/15 松竹大歌舞伎四代目尾上松緑襲名
披露公演 12:00～・16:30～●
9/25 THE BOOMコンサート 19:00～●
11/29 安全地帯コンサート 18:30～●

総合会館アイレックス ☎(0877)86-6800

9/23 松竹公演(おもしろい町) 14:00～●
9/27 善通寺龍神太鼓コンサート
(問合せ先 石井修之 0877-62-0403)
10/18 モンゴル国立民族音楽会
11/21 NHK金管5重奏
(問合せ先 綾歌郡教育委員会 0877-86-5936)

善通寺市教育委員会 ☎(0877)63-6328

10/25～11/16 第20回善通寺市民文化祭
11/2～3 善通寺空海まつり 善通寺伽藍

東かがわ市とらまる公園事務所 ☎(0879)25-0400

9/13～15 第19回レクリエーションと人形劇
のカーニバル ●

イベントガイド

香川県文化会館 ☎(087) 831-1806

- < 1・2・3 階展示室 >
 9/4~15 第42回日本現代工芸美術展 9:00~●
 10/10、11 香川県華道選抜秀作展 (前期)
 <心をかたちに~伝統、そして未来~>
 10日 10:00~・11日 9:00~●
 10/12、13 香川県華道選抜秀作展 (後期)
 <心をかたちに~伝統、そして未来~>
 9:00~●
 11/1~30 琉球の至宝と型絵染
 ~人間国宝鎌倉芳太郎の全仕事~
 9:00~●

- < 6 階常設展示室 >
 9/4~10/13 館蔵品による花たちが語るもの展
 9:00~●
 11/1~30 館蔵品による鎌倉秀雄展~清明な
 る空間~ 9:00~●

香川県民ホール ☎(087) 823-3131

- < グランドホール >
 9/28 ファン・ホ・ドミンゲスコンサート 18:30~●
 10/2 ウィーンの森バーデン市立劇場
 オペレッタ「こうもり」 18:30~●
 10/5 しこくフレッシュコンサートINかがわ 14:00~●
 10/9 長瀬剛コンサート 18:30~●
 10/10 JALグループチャリティー・トーク・コンサート
 永六輔の「誰かと香川で」 18:30~★
 10/13 松山千春コンサート 18:30~●
 10/15 松たか子コンサート 18:30~●
 10/19 第12回「心の詩」コンサート 14:00~★
 10/21 山崎まさよしコンサート 18:30~●
 10/29 織田裕二コンサート 18:30~●
 10/31 氷室京介コンサート 18:30~●
 < アクトホール >
 9/12 宝海竜也とチビ玉兄弟衆公演
 13:00~・17:30~●
 9/24 ポーラ心のエステコンサート 19:00~●
 10/18 香川芸術フェスティバル2003主催
 公演さらばゲンダイ音楽 18:30~●
 10/19 香川芸術フェスティバル2003主催
 公演さぬき文芸祭 11:00~●
 10/31 香川芸術フェスティバル2003主催
 公演さぬきジャックスピア 19:00~●

高松市歴史資料館 ☎(087) 861-4520

- ~9/15 第33回特別展
 「ヒーローズ~昭和のイラスト・
 特撮の世界~」 9:00~●
 10/4~11/9 第34回特別展
 「高松城跡と栗林公園(仮称)」 9:00~●

高松市教育委員会文化振興課 ☎(087) 839-2636

- 9/4~ 高松市市民文化祭
 アーツフェスタたかまつ2003
 9/6 オープニング
 ジュニアオペレッタ「妖精の森」
 高松市民会館 14:00~●
 9/27 サンポートホール高松開館記念
 高松生涯学習フェスティバルシンポジウム
 「みんなで考えよう、自分流『ポート
 ホール高松』活用法」
 高松市生涯学習センター 13:00~■
 9/30 デリバリーアーツ事業「津軽三味線」
 前田小学校校体育館 18:30~■
 10/2 デリバリーアーツ事業「津軽三味線」
 東植田小学校校体育館 15:00~■

高松市美術館(休館日:月曜) ☎(087) 823-1711

- 9/12~10/19 モーリス・ドニ展 9:30~●
 10/31~12/7 舟越桂展 9:30~●

高松市立市民会館 ☎(087) 839-2888

- 9/7 高松市音楽協会
 第30回秋の音楽まつり 13:00~★
 9/14 琴・尺八・三弦による邦楽三曲演奏会 12:00~●
 9/23 民謡・民舞まつり 12:00~●
 9/28 新生若葉劇団がんばれチビ玉三兄
 弟全国ツアー 14:00~・18:00~●
 11/2 葉加瀬太郎コンサート 18:00~●
 11/27 さつま弁の落語家 三遊亭歌之介
 落語独演会 18:30~●

高松テルサ ☎(087) 844-3511

- 11/1~9 第9回高松市・高松テルサ勤労者美術展
 絵画25点、書道25点、写真20点の
 合計70点 展示ホール1階 9:00~■
 11/1 高松テルサ音楽祭2003
 香川ジュニア音楽コンクールにおいて各
 部門において金賞を受賞した子供約30
 ~40名程度 テルサホール 13:30~■

玉藻公園管理事務所 ☎(087) 851-1521

- 9/14 高松市市民文化祭
 文芸まつり俳句大会 披雲閣
 9/20、21 高松市市民文化祭
 秋趣茶会といけばな展 披雲閣
 9/23 高松市市民文化祭
 世界のお手玉を作って、見て、遊ぼう!! 披雲閣
 10/5 石州流祖宗関公331年祭記念茶会
 披雲閣
 10/19~11/18 第48回菊花展 二之丸跡、三之丸跡
 10/26 高松屋島ライオンズクラブ秋の茶会
 披雲閣
 11/16 一茶庵久松会「流展」(茶会と華
 展) 披雲閣
 11/30 香川大学表千家流茶会 披雲閣

ギャラリーen ☎(087) 851-3711

- 9/15~20 「芝崎重一とたかすの世界」展 10:00~■
 10/1~10 「吉井史郎の器」展 10:00~■
 10/24~29 「中町博志 流麗なる加賀友禅
 きものと帯の世界」展 10:00~■
 11/24~12/2 「赤木明登ぬりもの」展 10:00~■

三越高松店 ☎(087) 825-0828

- < 本館5階 美術画廊 >
 9/1~8 現代高僧名僧墨蹟展 10:00~
 9/16~22 生命満開 佐藤勝彦展 10:00~
 9/23~29 秋の大板画展 10:00~
 9/30~10/6 日本染織作家協会関西支部展 10:00~

ヨンテンスラザ高松 ☎(087) 851-3863

- < ギャラリー >
 9/1~7 彩水会展「はがき絵展」
 9/16~21 第29回 旅の思い出展
 9/23~28 キャノンクラブ高松支部第2回写真展
 9/30~10/5 第1階サムディ展
 < イベントコーナー >
 9/20 ふれあいキッチンコンサート 15:00~■

さぬき市志度音楽ホール ☎(087) 894-1000

- 10月~平成16年3月
 「さぬき市クラシック音楽ゼミナール」
 < 愛称=ランパル塾 >
 県下の様々な分野における篤学の
 士6名の方を講師に迎え、各ゼミ1
 回(全6回)100分の講義を行います。●
 トーマス・クリスティアン バイ
 オリンリサイタル 18:00~●
 11/29 ムジカ・ボヘミカ&志度音楽ホール
 少年少女合唱団クリスマスコンサート 14:00~●

庵治町民会館 ☎(087) 871-4162

- 9/7 文化講演会「愚にもつかぬことを90分」
 元香川銀行広報宣伝担当次長
 土井彰二 庵治町民会館 10:00~
 11/2、3 文化展・芸能大会
 庵治町民会館、庵治小学校校体育館
 9:00~

坂出市民ホール ☎(0877) 45-1505

- 9/21 香川県吟剣詩舞 秋季大会
 11/7 柳家小三治独演会

あーとらんど ギャラリー ☎(0877) 24-0927

- < 1F 絵画ギャラリー >
 9/6~28 高橋章写真展 10:00~■
 9/6 企画展講座 高橋章写真展
 「私の写真について」
 写真の仕事を通じて様々な感じてき
 たことや写真に対する想いを自由に
 語っていただきます 19:00~■
 10/4~26 塩崎淳子版画展 10:00~■
 11/1~23 関正和展 10:00~■
 11/30~12/21 2003様々な邂逅展 10:00~■
 < 2F 工芸ギャラリー >
 9/6~28 暮らしの中の骨董展 10:00~■
 10/9~26 用と美の茶道具展 10:00~■
 10/30~11/2 秋の茶道具展 10:00~■
 11/6~12/8 アモール・プラザ展 10:00~■
 12/13~27 工芸企画展(北岡氏ほか) 10:00~■

多度津町文化講演会 ☎(0877) 33-3330

- 9/7 多度津町文化講演会(米原万理、
 藤吉洋一郎) 13:30~●
 11/16 劇団四季ファミリーミュージカル
 「エルコスの祈り」 15:00~●

大野原町中央公民館 ☎(0875) 54-5711

- 11/1~3 第35回大野原町文化展・埋蔵文化財展
 大野原町スポーツセンター、
 大野原中央集会場

丸亀市教育委員会文化課 ☎(0877) 24-8822

- 10/18~26 第50回丸亀市芸術祭主催展覧会<前期>
 書、工芸、写真、彫刻
 丸亀市立資料館 9:30~■
 日本画、洋画
 丸亀市生涯学習センターギャラリー
 9:00~■
 10/26 第2回ばさらの寄合IN丸亀城
 オーケストラ演奏「子どもの詩」表彰式
 能楽笛とヴァイオリン、インド太
 鼓のセッション、立花など
 丸亀城内芝生広場 雨天時市民会館
 13:30~●
 11/1~3 第50回丸亀市芸術祭主催展覧会<後期>
 生花・サヌキ彫・楽焼 9:00~■
 11/2 第50回丸亀市芸術祭主催公演
 ミュージカル「パンジャマランドリウム」
 丸亀市生涯学習センターギャラリー
 12:30~・16:00~●
 11/3 第50回丸亀市芸術祭主催行事<お茶会>
 丸亀市生涯学習センター2F大広間
 10:00~●

「アーツフェスタたかまつ2003」 ねきみん「讃岐の伝承芸能」見本市

地域の香りいっぱいの伝承芸能をご紹介します。

さあ、いらっしやい、いらっしやい。

昔、なつかしい風景の再現です。



- 出演 佐料編笠神楽保存会（お神楽）
築地子ども会（子供獅子）
香翠座デコ芝居保存会（人形浄瑠璃）
- 日時 平成15年9月14日（日）10:00～12:00
- 場所 高松市生涯学習センター
（まなびCAN）3階多目的ホール
- 料金 無料

- 主催 高松市市民文化祭アーツフェスタ運営委員会
- 共催 高松市、高松市教育委員会、
財団法人・高松市文化芸術財団
- 主管 高松市歴史民俗協会

月に一度の喫茶室

立札席や小間（美藻庵）でゆったりとした時間をお楽しみいただけます。コーヒー・紅茶等の用意もあります。茶会ではありませんので、茶道の経験に関係なく気軽にお立寄り下さい。

晴松亭でお茶しませんか！

- 平成15年 9月16日（火）
- 平成15年10月21日（火）
- 平成15年11月18日（火）

毎月第3火曜日 ●10:00～16:00
喫茶料 1000円（友の会は割引）

（ランチのご予約は2日前までをお願いします。）

「声・情報お寄せください」

〒760-0017 高松市番町二丁目一十二
（財）中條文化振興財団編集部
TEL（087）8266・3355
FAX（087）8266・2212

中條文化振興財団設立10周年 記念講演会のお知らせ

伝統を守りつつ、現代にそれぞれの世界を伝えられる茶道界注目の三氏による夢の鼎談が実現することとなりました。また翌6日には、講演記念茶会も催して頂きます。（詳細は行事予定）

鼎談 — 「桃山の茶陶」

樂焼茶碗と和物茶碗



武者小路千家 家元後嗣 千 宗屋氏
千利休を祖とした茶道三千家のひとつ、武者小路千家官休庵は、松平頼重公以来の讃岐の茶頭でもある。今春、大徳寺にて齋号「随縁斎」を授与された。

樂家第15代当主 樂 吉左衛門氏
利休時代以来綿々と続く、樂家の伝統を継承しつつ、現代陶芸作家としてその活動は、常に内外から注目されている。樂美術館 館長。



谷松屋戸田商店 社長 戸田 博氏
谷松屋は江戸時代からつづく松平不昧公出入りの道具商として知られる。氏はその後継者として広い視野で現代における茶陶の世界を模索している。

と き：10月5日（日）午後1時30分（開場は1時）

ところ：香川県歴史博物館 地下講堂

入場料：1000円（定員230名）

◆チケットのお申し込みは財団事務局まで
TEL087-22-3355（水曜日定休）

栗林公園イベント公募事業

中国琵琶・古箏と 茶を楽しむコンサート

（中国琵琶）唐華・（古箏）謝 雪梅・（茶席）原 清子

- ◆平成15年9月15日（月）祝日
第一部 12:30～14:00（50席限定）
第二部 15:00～16:30（50席限定）

◆栗林公園 掬月亭
チケット：前売 3,000円・当日 3,500円

主催/NPO法人 サウンド・華韵（かいん）
TEL087-812-6870

編集後記

我が家の前の街路樹で今年もセミが鳴き出した、遅い夏の到来を告げるように。

太陽が昇る前にも思いがこみステーションに向かう。その帰りに高校生らしき十数人と引率の先生方に出会いました。するとどうでしょう、私の横を通り過ぎる時に一人一人「おはようございます」と言ってお辞儀をして下さったのです。もちろん先生方も。その日一日がとても清々しい気持ちで過ごせたのは、皆さんお解りいただけるでしょう。

市内のR小学校では「挨拶運動」に取り組み、卒業生の作った詩に曲を付けて登校時に歌っていると聞きました。強制ではないので希望する子供たちだけで歌っていると言います。「おはよう」「こんにちは」「すみません」「ありがとう」「さようなら」「しつれいします」歌と歌の間に挿入されている言葉です。また「ひとの目を見て 心をこめて」という歌詩もありました。子供たちが顔をあわせて挨拶と返礼をしている様子が浮かんできました。

日々の暮らしの中で言葉に出さなくても、軽く会釈を交わすだけでも、心待ちがずいぶん変わってくるのではないのでしょうか。そうすれば、事故やいろいろなトラブルも悲惨な事件も起こらずに済んだかも知れないのにとついつい考えてしまうのです。少しづつでもいい、こうした運動の成果が実り穏やかな世の中になつてほしいと願うものです。